

フィリピン パナマ病対策でバナナ産業への支援を強化

[FreshPlaza 2024年11月14日](#)

フィリピン農業省(DA)は、国内のバナナ産業に対する支援メカニズムを強化しており、パナマ病や国際市場からの競争圧力などの課題に取り組んでいる。シェリル・マリー・ナティビダッドカバレロ農務次官は、ミンダナオ島、ビサヤ諸島、ルソン島など様々な地域では場試験が進行中のパナマ病抵抗性バナナ品種の開発に向けた研究に対する農務省の取組みを強調した。

バナナ生産の重大な脅威であるパナマ病は、約1万7千ヘクタールに影響を及ぼし、フィリピン産バナナの競争力を脅かしている。これを受けて、DAは農場の回復と新しいバナナ農場の設置のための信用支援を提供しており、1ヘクタール当たり少なくとも45万ペソ(約120万円)の信用支援を提供することを目指している。また、作物栄養学や総合的病害虫管理などの分野での研究の革新も推進している。

小規模バナナ農家へのさらなる支援には、フィリピン版GAP証明書の取得や、蔓延を防ぐための生物学的防除の提供が含まれている。DAは、高価値作物事業への予算配分を増やすことを計画しており、高品質なバナナ繁殖材料の生産のために組織培養センターに資金を提供する。同省はさらに、フザリウム萎凋病の影響を受けた生産者が、栽培品目にハスアボカドやドリアンを含めて多様化するよう支援している。

また、フィリピンのバナナ輸出に対する関税を引き下げて、競争の場を競合国と平等にするため自由貿易協定の強化にも取り組んでいる。日本、韓国、中国などの主要市場では、競争が激化し、市場シェアが減少する中、輸出ステータスを維持することが課題として認識されている。フィリピンは世界のバナナ市場での地位を回復することを目指しており、昨年のバナナ輸出量は235万トンとわずかに増加した。

出典: [philstar Global](#)

米国カリフォルニア州 生食用ブドウの生産量が力強く回復

[The Grape Reporter 2024年11月15日](#)

カリフォルニア州の生食用ブドウは、2023年シーズンに嵐に見舞われた後、生産量が力強く回復

カリフォルニア州は、2023-24年度シーズンに困難に直面した後、生食用ブドウ業界の力強いカムバックシーズンを経験している。米国農務省のデータによると、同州は11月初旬までに昨シーズンの同時期より1,200万箱多い7,100万箱を出荷した。

すべての生食用ブドウはサンホアキンバレー地域から来ており、通常6月から1月の間に出荷される。11月8日だけで、同州は70万5千箱強の生食用ブドウを出荷した。収穫は進行中であり、業界は9千万箱以上の収穫を予想し、出荷は12月まで続くものと見込んでいる。

エスピノーザ氏(フロニス社)は「シーズンの終わりに向かって、晩生品種、特にアリソンの出荷量が回復した。これは非常に実が締まっており、優れた品質である」と Freshfruitportal.com(本サイトの関連サイト)に語った。

ほとんどの果樹園は、果実を雨から守り、その品質を維持するためにプラスチックフィルムで覆われているが、今シーズンは確かな品質で安定していると同氏は述べた。

同氏はまた、「弊社の取引先の小売業者は、店舗や年末の販促に提供するため、引き続き毎週発注している」と述べた。

米国農務省のデータによると、昨シーズンは8月の熱帯暴風雨ヒラリーの影響を大きく受け、カリフォルニア州の出荷量は合計6,970万箱で終わった。

過去4年間、シーズン中この時期までのカリフォルニア州の出荷量は少なく、4年間の内で最も多かった2022年でも7,060万箱であった。

(翻訳は情報の提供を目的としており、特定の企業や製品を推奨するものではありません。)